

若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう

～デジタル化による新たな紙芝居を創る～

一般社団法人 オリーブ協会

0.20

葉 13℃ 13℃ 13℃ 13℃ 12℃

“戦争紙芝居”をアニメ化
次の世代にバトンつなく
茨城



“届けきれていない”

NHK NEWS

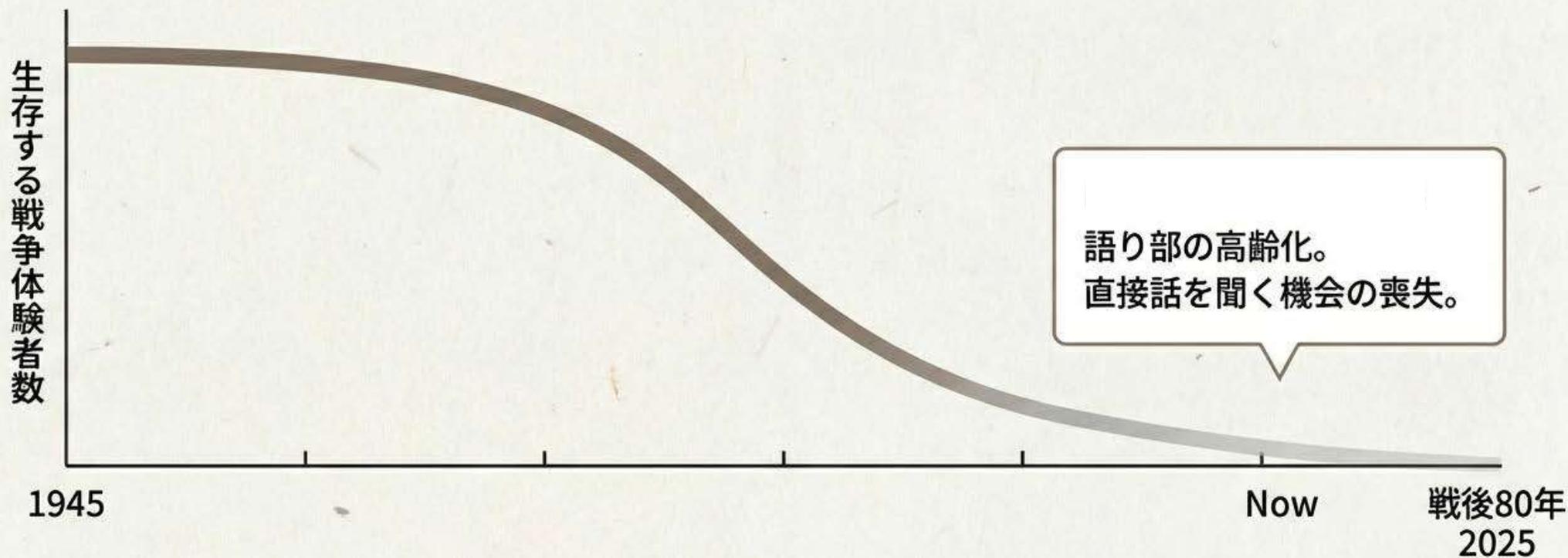
画像提供 オリーブ協会



平和のバトンを、デジタルの手でつなぐ。

戦争体験の継承とプログラミング教育の融合：協働事業提案書

「聞くだけ」の平和教育は、もう限界かもしれない。

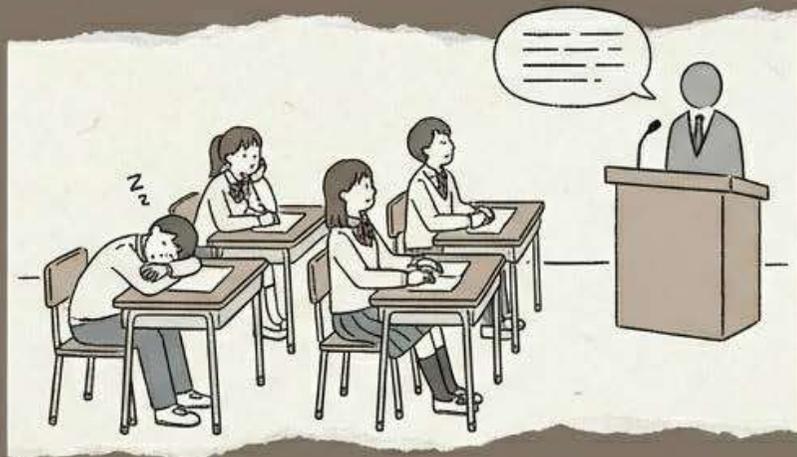


従来の講演形式では、若者の当事者意識が育ちにくい。
「他人事」で終わってしまう。

記憶を守る最善の方法は、若者が「作り手」になること。

課題は「デジタル化」ではありません。「自分たちで考え、形にするプロセス」です。

受動的継承 (Old Model)



- ・ 講演を聞くのみ
- ・ 記憶に残りにくい
- ・ 「眠い」で終わる

能動的継承 (New Model)



- ・ プログラミングで動かす
- ・ 音楽や演出を考える
- ・ 共感を通じた記憶

なぜプログラミングなのか？ 技術の裏にある「共感」のプロセス



ソリューション：プログラミング × 戦争紙芝居



紙の紙芝居
(原画)



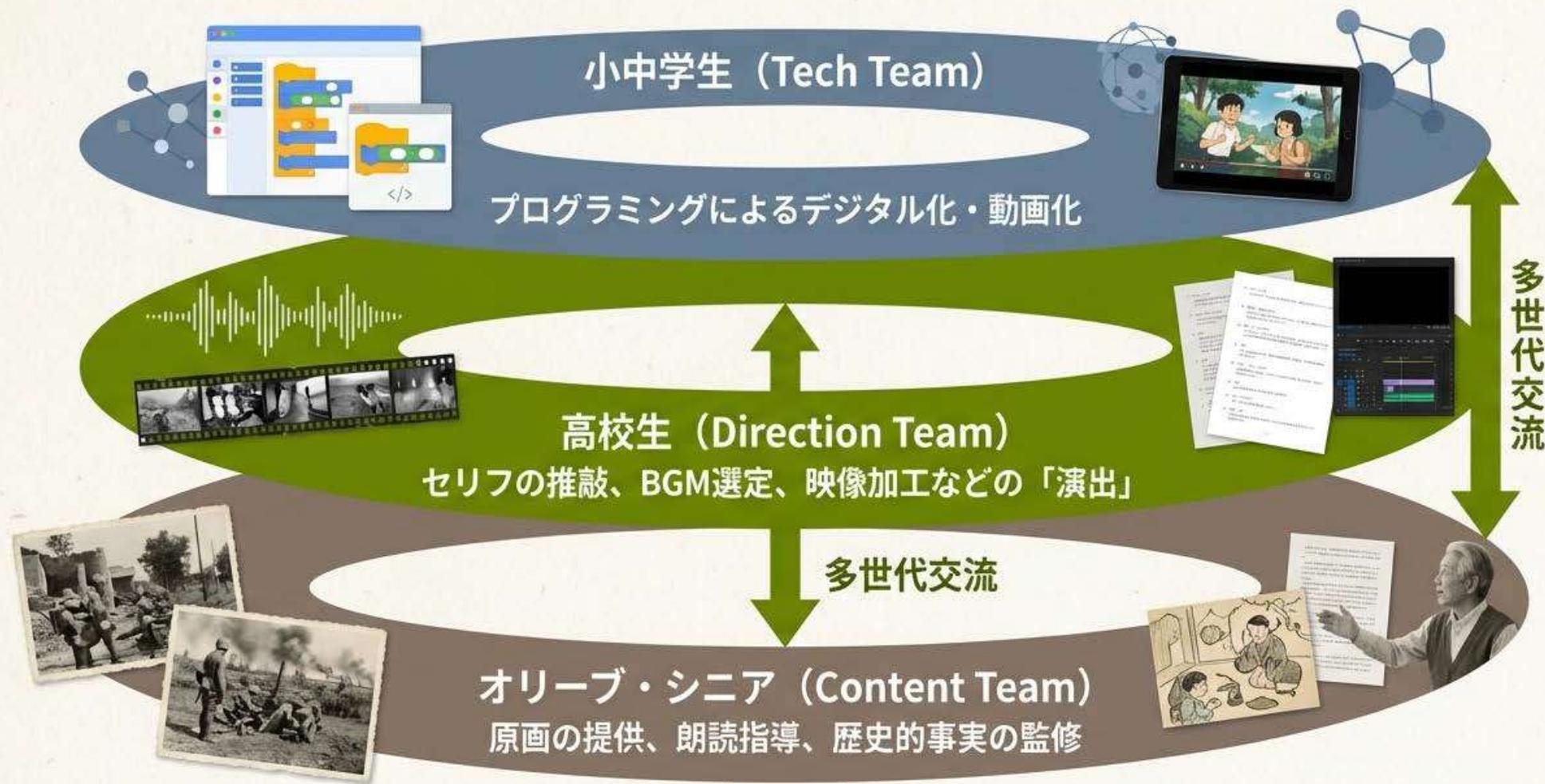
子供たちによるプログラミング



動く物語
(デジタル資産)

紙の資料を単にスキャンするのではなく、プログラミングを用いて「動く物語」として再構築します。これにより、半永久的な保存が可能になります。

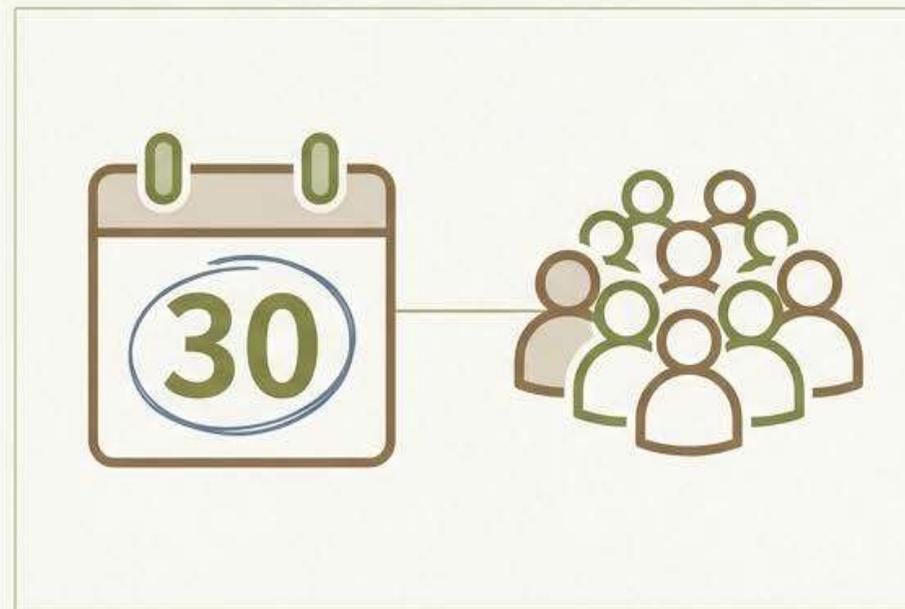
多世代協働チーム：小学生からシニアまで、全員に役割がある



実績と信頼：NHKでの世界放映と、地域に根ざした活動



NHKにて活動が特集され、全国・世界へ放映。大きな反響を獲得。 ↗



団体「オリーブ」として年間約30回の公演実績。数千人の観客動員。

提案の全体像：なぜ今、水戸市でこの事業が必要なのか



現状の課題

戦後80年。体験者の減少により、「肉声」による継承が限界に。



解決策

「受動的」な学習から「能動的」な創造へ。子供たちがプログラミングで戦時中の物語を再構築する。



実績

NHKでの全国・世界放映実績。年間30回・数千人への公演を行う「オリーブ」の確かな基盤。



水戸市への依頼

水戸市との協働により、公立学校への導入と社会的信用の獲得を目指す。

協働のシナジー：なぜ、水戸市と組む必要があるのか



コンテンツ・技術
(Olive)

+



信用・アクセス
(Mito City)

=



教育イノベーション
(Innovation)

水戸市への依頼事項

- 1 公立学校への働きかけ・情報の周知
- 2 参加学生（作り手）の募集支援
- 3 活動場所・発表会場の確保

外部委託ではなく「市民協働」による、低コストかつ高品質な教育プログラムの実現。

スケジュール（1年目）：制作と発表のロードマップ



夏休み期間を重点的な制作期間として設定。

発展性（2年目以降）：作った教材で「出前授業」へ



デジタル化された作品を活用し、活動の場を教室から地域全体へ広がります。

収支計画：持続可能な予算構成

項目	金額
市助成金	450,000円
自己資金	50,000円

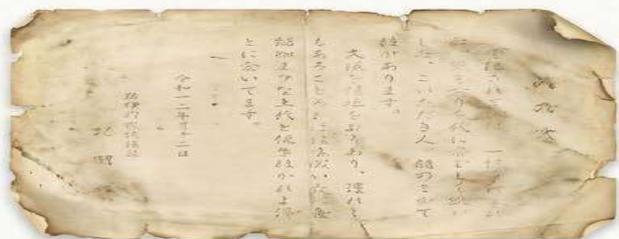
総額 500,000円

主な用途

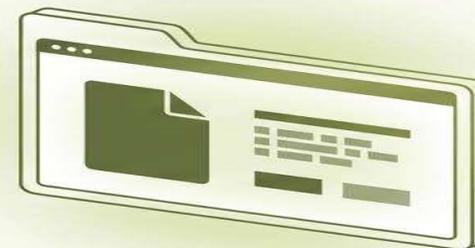
- ・講師謝金
- ・映像作成委託料
- ・消耗品・会場費

費用対効果の高い、具体的かつ適正な算出。

成果物：時間と場所を超えて継承される「デジタル資産」



紙媒体：経年劣化、
その場でのみ閲覧可能



デジタルデータ：劣化なし、
WEB でいつでもどこでも視聴可能

水戸の戦争体験が、世界中の平和教育教材になる可能性。

NotebookLM

水戸から全国へ、そして世界へ。



私たちが作るのは、単なる動画ではありません。
ん。「平和とは何か」を考え抜いた子供たちの
未来そのものです。この新しい継承モデルを、
水戸市と共に作り上げましょう。

費用対効果の高い、具体的かつ適正な昇出。

NotebookLM

